

## 課題名

# 未来創造館が掲げる“CROSSING”な学びを実現する、 学生間相互学習支援システムの研究開発

本取り組みは、キャリア教育科目を受講した学生有志が集うキャリアデザインゼミの組織運営に関する課題を“ピアコーチング理論”を用いて解決することを目的としたものである。自主ゼミに所属する約25名の学生が、2023年4月～2024年1月までの約10ヶ月間、2回のピアコーチングプログラムと合宿に取り組み、社会人基礎力の中でも特に「チームで働く力」の向上に努めた成果を報告する。

## 成果1 学生間コミュニケーションの活性化

ピアコーチングに取り組むペアは、自主ゼミの当時リーダーが、普段話すことの少ないメンバー同士（例：学年・学部が異なる）で、且つ価値観や個性を考慮して組み合わせることが功を奏した。

1年生からは「将来に対する先輩の目標が明確で、就職や海外研修など、自分を成長させてもらえる話が聞けた。」「先輩から自分では気づけない強みを見つけてもらった。自分をもっと知る必要があると思った。」等の意見があり、ゼミ内での新しい関係が生まれたきっかけになった。



## 成果2 自主ゼミ運営のスムーズな引き継ぎ

約2年間リーダーを務めた4年生が2024年3月に卒業を迎えることもあり、2023年度内にその役割を引き継ぐことが、自主ゼミ活動の大きなテーマの一つだった。9月の合宿を皮切りに、新体制に向けた意見交換がおこなわれ、10月中旬には新しいリーダーへの引き継ぎ会が開催された。

**2023年度は自主ゼミのメンバーが大幅に増え、これまでの1名リーダー体制では負担が大きいため、2,3年生からそれぞれ1名のリーダーが選出され、2名リーダー体制で運営することに決定した。**



## 成果3 社会人基礎力の肯定的な変化

PEER+活用にあたっては、事前事後に自己開示の受けやすさに関するオープナー・スケールと社会的スキルの度合いを見るKiSS-18の2つの尺度からなる質問紙による調査と、終了時に「気づき」「心地よさ」「難しさ」「その他」の4つの設問で自由記述式の振り返りを求めたアンケートに回答してもらった。その結果、PEER+活用の1巡目時点においては、オープナー・スケールでは前後で差が見られなかったが、**KiSS-18では事後が有意に高かった。**その後2巡目を終えた段階では、**オープナー・スケール、KiSS-18ともに有意に高い結果となった。**次に事後の自由記述を社会人基礎力の12の能力要素を利用して分類を行った。結果、チームで働く力から「傾聴力」「状況把握力」「発信力」「ストレスコントロール」その他の2つから「課題発見力」に関わる振り返りが複数抽出された。

〈表1〉質問紙調査結果

	オープナー・スケール		
	事前	事後	t(23)
合計の平均	41	45	3.29*
	KiSS-18		
	事前	事後	t(23)
合計の平均	71	80	3.27*

\*  $p < .01$

向上した能力

傾聴力・状況把握力・発信力・ストレスコントロール力・課題発見力

## 利用サービス

### オンラインピアコーチングサービス PEER+

ピアコーチングで「横のつながり」を「育て合う仲間」に変える、自律的な組織づくりのためのクラウドサービス。株式会社コーチエット（本社：東京）が開発・提供を行なっている。上司や部下など「縦の関係」やプロによるコーチングと異なり、仲間同士の「横・ナナメの関係」でお互いにコーチングしあうアプローチ。本取り組みでは、この「PEER+」を利用して、学年・学部の異なる学生が集う自主ゼミの組織運営において重要な「横・ナナメの関係づくり」を促し、学生同士が学び合える仕組みのあり方を模索した。



画像・ロゴ引用：PEER+公式ホームページ <https://peerplus.jp/>

## 実施スケジュール

前期と後期に各3ヶ月間、「PEER+」を利用したピアコーチングプログラムを異なるペアで実施した。前期のピアコーチング終了後、櫻本代表を招いて1泊2日の合宿を行い、後期のプログラムに向けた振り返りと自主ゼミ全体のビジョンを導き出すことを試みた。各プログラムの実施前後にはオンラインアンケートを実施し、学生同士の関係性や社会人基礎力の変化を測定した。

時期	4月上旬～5月中旬 (約1ヶ月半)	5月中旬～下旬 (約0.5ヶ月)	6月上旬～8月下旬 (約3ヶ月)	9月11～12日 (1泊2日)	9月上旬～11月下旬 (約3ヶ月)	12月上旬～翌1月下旬 (約2ヶ月)
内容	デモプログラム	プログラムの調整	プログラム①	振り返り・ビジョン 導出合宿	プログラム②	振り返り、まとめ
目的	ピアコーチング理論 の理解促進と体験 課題抽出	対象学生のニーズに 合ったプログラム 内容に修正	ピアコーチング理論 の理解、スキルの 修得	ピアコーチング修得 度確認、ありたい姿 の導出	ありたい姿に近づく チームビルディング	効果検証

【1日目】 10:00 福山駅集合、出発  
12:00 帝釈峡到着、宿泊施設でのランチ  
13:00 オープニングセッション（担当：教員）  
13:30 講義・個人ワーク（担当：櫻本様）  
15:15 グループワーク（担当：櫻本様、教員）  
16:45 買出し・準備（担当：ゼミ生）  
18:00 夕食（バーベキュー）  
22:30 就寝

【2日目】 6:30 起床  
7:30 朝食（担当：ゼミ生）、準備  
8:30 講義・ワーク（担当：櫻本様、教員）  
11:45 クロージングセッション（担当：教員）  
12:00 昼食（弁当）  
13:00 レクリエーション（担当：ゼミ生）  
15:00 帝釈峡出発  
17:00 福山駅到着、解散

## 課題と今後について

本取り組みによって、学生のコミュニケーションスキル向上と自主ゼミの組織運営の課題解決に一定の成果があったと考えられるが、複数人のグループ（4名以上）でのコミュニケーションやワークに於いては、積極的な発言が減り、コミュニケーションに課題を感じることが未だ少なくない。2024年度も引き続き取り組みを継続し、学生間で活発な意見交換が生まれる仕組みづくりに努めたい。

プログラム① 6月上旬～8月下旬

関係値の深化・信頼向上

6月上旬から8月下旬にかけて行われたペアでのピアコーチングは、参加者のほとんどが初めて体験するものでした。普段はあまり踏み込んだ話をしないメンバー同士が、自分の過去や価値観など、より個人的な話をすることで、メンバー同士がお互いをより深く理解することができた2ヶ月間でした。

参加メンバーの感想・気づき

本コーチングを行う中で、質問に答えられなかったり、相手が答えに困ったりする問題が発生し、自分の言語化や質問力の低さに気づきました。しかし、後輩と話す機会を通じてコツをつかみ、人の話に興味を持つようになりました。コーチングが終わった後の学生同士の交流イベントでは、質問力が向上し、先輩から褒められるまでになりました。(経済学科3年)

→ “発信力、課題発見力”の成長

コーチングを始める前は、自分の強みや価値観が分からなかったが、2つ上の先輩と組むことでその問題が解決しました。先輩は自分の強みと弱みを理解し、自信を持って意見を言う人でした。その先輩を参考にすることで自身が話の深掘りが得意なことや、相手の立場に立って一緒に方法を考えるのが強みであることを明確にしました。(経済学科2年)

→ “状況把握力?”の成長

様々な視点を持つ後輩と接することで視野が広がりました。自分は面白い話で楽しませることを重視していたが、後輩は相手に寄り添い、雰囲気に合わせて話し方をしていました。後輩の話し方を真似することで、初対面や緊張している人と一緒に話を盛り上げる方法を取り入れ、後輩との壁を感じなくなりました。(メディア・映像学科4年)

→ “状況把握力、発信力”の成長

4年生の先輩とコーチングを行い、社会人になる準備としてプレゼン技術の向上と一緒に練習しました。先輩から「落ち込まずに反省できることは長所だから、失敗を糧に成長できる」という助言をもらいました。その助言を活かし、自分が作った資料を先輩に即興でプレゼンしてもらうことで、自分の伝えたいことが資料にどれだけ記述できているかを確認し、次に活かすようにしました。(メディア・映像学科2年)

→ “ストレスコントロール力、課題発見力”の成長

自分は誰にでも八方美人的に接していましたが、ペアを組んだ相手は関わる人を選んでいました。コーチングを通して相手の価値観を理解し、異なる考え方への理解が深まりました。また、具体的な目標がないとモチベーションが維持できないことに気づき、目標設定を手伝ってもらうことで、自分の理想とする先輩像に近づくための具体的な目標を設定できるようになりました。(経済学科3年)

→ “状況把握力、発信力”の成長

プログラム② 9月上旬～11月下旬

多角的な意見共有

合宿での振り返り後、9月上旬から11月下旬までの期間に、3人1組でのピアコーチングを行いました。コーチングの相手が3人に増えたことで、話し合いは複数の視点からの意見を取り入れながら進むようになりました。第三者の客観的な意見が加わったことで、問題に気づく量が格段に増えました。

参加メンバーの感想・気づき

4私は3つのやりたいことに取り組む際、コーチングで2人から助言をもらいました。1人目は俯瞰的な視点で新しい突破口を見つける手助けをしてくれ、取り組み方を変えることができました。2人目は、理解できない部分を丁寧に深掘りしてくれたので、言語化力が向上しました。彼のお手本を参考にして言語化の練習をすることができました。(経済学科3年)

→ “傾聴力、課題発見力”の成長

失敗を引きずりがちでしたが、ポジティブな相手のおかげで落ち込まずに取り組みました。4年生の先輩と1年生の後輩と組み、先輩の助言で安心してコーチングを行えました。相手の立場に立った質問の仕方を学び、後輩とも緊張せずに話せたことで、コミュニケーションに自信がつけました。(メディア・映像学科4年)

→ “ストレスコントロール力、発信力?”の成長

先輩のコーチングを受ける中で、先輩が後輩と自分への質問の仕方を変えていることに気づきました。後輩には細分化した質問、自分には視点を増やす質問をしていました。この二つの質問の仕方を使い分けようとして挑戦しました。コーチング中、後輩がイベントに挑戦したいと言ったことで、自分も先輩像の実現を目指し、後輩や同級生をイベントに勧誘する行動を取るきっかけになりました。(経済学科3年)

→ “課題発見力、傾聴力”の成長

3人でコーチングをする際、聞き手、話し手、観察者の役割がありました。これにより、話し手と聞き手の良かった点・悪かった点を第三者の視点で指摘し、気づくことができました。また、相手によって質問の仕方を変える工夫を身につけました。さらに、毎回の振り返りと今後の改善策を考える機会があり、普段から自分を見つめ直すことができました。(心理学科3年)

→ “発信力、課題発見力”の成長

当時の1年生と2年生で行ったため始めは内容の深掘りまでは行えず、決められた内容で進めたり自己分析ができていないため質問を受けてから答えるまでに時間がかかっていたりしていました。しかし回数を重ねていくごとにそれらができるようになり、また相手に合った深掘り方、FBができるようになり互いに成長を感じました。(経済学科4年)

→ “発信力、課題発見力”の成長

振り返り・ビジョン導出合宿 9月11日～12日

## コミュカアップ合宿

櫻本講師によるコーチングの基本と必要性を学ぶことでのコミュニケーション力アップと、合宿の企画による自主ゼミ運営引き継ぎの準備という2つの目的を掲げ、休暇村帝釈峡（広島県庄原市）のコテージと会議室を利用した1泊2日の合宿を行いました。



① 振り返りポストイット作成の様子



② ポストイットをまとめた写真



③ 櫻本さんの講義の様子



④ 夕食の様子



⑤ チームビルディングの様子



⑥ 今後の目標の共有

### 参加メンバーによる学びと気づき

合宿1日目では、6週行ったコーチング活動で学んだこと、反省点をポストイットでそれぞれボードに貼りながら話し合うことでコミュニケーションの細かい部分まで言語化を行いました。「こういう内容をよく話した」や「表情を読み取りながらのコーチングは難しかった」など感想も交えながら振り返ることでより学んだことを意識出来るようになりました。合宿2日目では、レクリエーションで貿易ゲームを行いました。まだまだ会話をしたことない人と話し合いながらゲームの進行を行うので1日目学んだことを実践する形で楽しく活用することが出来ました。

(メディア・映像学科 2年)

当時はまだしゃべることがなかった後輩とも合宿中はたくさん話す時間があり、一人ひとりの知らなかったことや新たな発見があり、後輩の考え方も知ることができて有意義な時間だった。また、夜は先生方の部屋に伺って貴重なお話をたくさん聞くことができ、先輩と先生方の部屋に一緒に行くと良かったと思っている。

このような機会を今後も続けていくことが、グループや団体で動くうえで大切なことだと考える。だから、今後も人と関わる機会を増やしていきたいし、みんなにも色々な人と関わってほしい。

(経済学科 4年)

普段関われなかった後輩と合宿の企画と一緒にすることで関わる事ができた。アイスブレイクの準備を一緒に行き、「実は〇〇です」から始める自己紹介をすることになりました。普段は前に立たないような後輩たちが前でアイスブレイクをするというきっかけになって良かったと思いました。

櫻本さんと食事の時間に話すことで、好きなゲームジャンルからでもその人の価値観が分かることを教えてもらい、趣味の話からでも相手の深いところまで考えることができるという視点を知ることができた。

(経済学科 3年)

### 課題と今後について

ピアコーチングの振り返りをグループワークで共有し、櫻本講師から丁寧なフィードバックを頂いたことで、**積極的に相手の話を聞くことや、相手の感情・視点に共感することの大切さを深く理解しました。**学年を超えたコミュニケーションが円滑になり、先輩への相談や自主ゼミ運営の引き継ぎもスムーズに行えました。この取り組みを継続し、**様々な学年・学部が集う自主ゼミの強みを発揮できる関係づくりを目指したいです。**